

瑞宝単光章

おおにしせいいち
大西誠一さん(今田町下立杭)



丹波焼の窯元「丹誠窯」を受け継ぐ大西誠一さん。自動車販売の営業職を経て、1975年に実家へ戻り、51年間にわたり陶工に従事されてきました。登り窯での焼成にこだわり、大中小3基の窯を使い分けながら、独特の渋みや素朴な風合いを追求。釉薬を使用せず焼成する「焼締め」と呼ばれる作品づくりに取り組まれています。2013年には国の伝統工芸士に認定。県内の小中学生に陶芸教室を行うなど、普及啓発にも尽力されています。「登り窯を残してくれた父親や伝統工芸士の後押しをしてくれた仲間に感謝しています。今後も、体力の続く限り、作陶を続けていきたい」とその喜びを話しました。

叙勲従事者

栄光輝く

長年の功績や日々の努力を実らせ
栄光に輝いた皆さんをご紹介します

瑞宝単光章

たなかかずひろ
田中一裕さん(杉)



29歳で消防団に入団し、以来39年間にわたり、災害のない安全・安心なまちづくりに尽力してこられた田中一裕さん。副団長を9年間務めた後、2023年から2年間、団長として消防団を率いてこられました。印象に残る活動として、山内町の大規模火災や3件の行方不明者捜索事案などを挙げられます。特に、2021年の山内町の大規模火災では、広範囲にわたる活動の中で連携や連絡体制の難しさを経験。また、団員の安全を第一に考え、訓練の充実にも取り組んでこられました。

受章を受けて、「家族や団員をはじめ、地域の皆さんの支えがあったからこそ、ここまで続けてこれました」と、感謝の思いを話しました。



特定ラジオマイク
運用調整機構 八幡賞
田園交響ホール
ステージオペレーター
クラブ

「丹波篠山市民ミュージカル『シンデレラ〜ハシバミの木と愛の魔法〜』を舞台裏から支えたステージオペレータークラブ。特定ラジオマイク運用調整機構が主催する技術賞で、「マイクヘッドの付け位置ひとつにしても作品への配慮が感じられる」として、最優秀賞「八幡賞」を受賞しました。

山内伸広会長(中央)は、「出演者に『当たり前』を提供するために行っている工夫、努力を評価いただいたことが何よりうれしい。今後も努めていきたい」と話しました。



丹波篠山市観光協会

「兵庫を元気にする
サステナブルトラベル
アワード2025」
(※1)

※1) 持続可能な観光を通じて、県内の地域活性化をめざす旅行商品や取り組みを顕彰する制度

県旅行業界が主催する同アワードで、丹波篠山市観光協会が企画した体験型プログラム「1200年続く丹波篠山茶のヒミツ旅」が、「地域貢献ディステネーションの部 フォー・トゥモロー・アワード」を受賞しました。このツアーでは、茶畑の散策や製茶工程の学習、煎茶講座などを通して、丹波篠山茶の歴史や風土、文化を五感で学ぶことができます。中村浩二会長(左)は、「認められてうれしい。今後も、持続可能な観光地域づくりを進めていきたい」と話しました。

ユネスコ創造都市として工芸家の活動が盛んに。市内で活躍する工芸家たちの手仕事に迫り、作品に込められた思いや制作のこだわりを紹介します。



つくる人
Vol.16

レオクラフト
LEO CRAFT
たかぎゆうすけ
高木雄亮さん

高木雄亮さんは腕時計作家として、村雲地区向井にある工房「LEO CRAFT」で腕時計を製作・販売されています。アパレル業界で働かれ、革細工や帽子づくりなど、ものづくりが好きだった高木さん。「大阪の時計工房で開かれたワークショップに参加し、初めて時計をつくったときの楽しさが忘れられず、気が付けば仕事になっていました」と振り返ります。その後、時計の製作会社で技術を学び、2014年に独立されました。2017年には、製

作に集中できる環境を求め丹波篠山市へ移住し、工房兼ギャラリーを開設されました。高木さんは、時計のケースや文字盤、ベルト、バックルまで、ほとんどの部品を自ら手がけられています。ケースには真ちゅう、ベルトには牛革を使い、文字盤の数字は彫金などを施したアンティーク調の腕時計を作られています。特に、時計のケースにガラスをはめ、文字盤にムーブメント(時計を動かす機械部分)と針をセットする組立作業では、わずか数十分

の一ミリ単位の精度が求められ、調整を繰り返しながら組み立てられます。「長く使っていただけよう、耐久性や防水性、着け心地、見やすさまで妥協せず考えています」と高木さん。「時計づくりに携わり約20年。今後は、古時計のリメイク(再生)やリングウオッチ(指時計)など、新たな作品づくりにチャレンジしたい」と力強く話されました。

出展のご案内

■日時・場所

- ・9月9日(水)～15日(火)
銀座三越
- ・10月2日(金)～9日(金)
ハンズ京都店

このほか、明山修さんが、瑞宝小綬章を受章されています。次号に掲載予定です。





今月の「こんにちは市長室」

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、お越しいただいた順に面談いただきます。

と き 8月10日（月）16:00～19:00

ところ 本庁舎3階 応接室

問い合わせ 市長公室 ☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **ほっと HOT** とーく

丹波篠山の時代をつくろう



NHK のど自慢が再び丹波篠山へ！

丹波篠山市では8年ぶり2度目となる「NHKのど自慢」が9月13日（日）に開催されます！会場は田園交響ホールで、予選会は前日の9月12日（土）です。この予選会を通過した約20組がNHKのど自慢の大舞台に立つことができます。

平成30年6月に開催された前回は、観覧者応募数はなんと約3,000枚で当選の倍率は8.83倍にもなりました。出場応募数も約1,220組もあり、非常に厳しい競争を勝ち抜いた方だけが田園交響ホールの舞台上で歌うことができました。今回は、前回以上の申し込み数になることが予想されますが、皆さん奮ってご応募ください。

今回のゲストは、「河内おとこ節」でおなじみの演歌歌手中村美律子さんと、劇団四季出身で、ドラマなどでも活躍されているミュージカル俳優の石丸幹二さんです。石丸さんは、10月31日（土）に田園交響ホールで開催されるアンサンブル金沢との共演コンサートでも丹波篠山市にお越しいただきます。

出場・観覧の申し込みについては、今回はNHKのホームページからのWEB申し込みのみとなっています。

市長の学校訪問

市内の子どもたちが「ふるさと丹波篠山」を大切にする意識や、市政への興味・関心を高めるため、小・中学校を市長が訪問し、市の取り組みや、自然、歴史、文化、産業などの魅力を直接伝える「市長の学校訪問」を今年度も実施しています。



小学校での授業風景

これは授業で使った資料の一部です。【1】と【2】は子どもたちに出したクイズですが、皆さんは答えが分かりますか？

丹波篠山のよいところ

- ①美しいまちなみ
- ②食の宝庫
- ③デカンショ節などの文化と自然
- ④よい人ばかり

【1】6月はホタルの季節です。どれが正しいですか？

- ①ホタルのいる季節は、6月にきれいに草をかる
- ②ホタルのいる場所は、6月は草かりをひかえる



【2】丹波篠山市に移住して来られた方がびっくりして喜ばれることがあります。どんなことですか？

- ①こどもがあいさつしてくれる
- ②大人たちが寒くても暑くてもグラウンドゴルフをしている
- ③村ぐるみでゴミ拾いや草かりをしている

【1】について、正解は②。子どもたちは全員正解です。市でもクリーングリーン作戦を7月にずらしてもらったり、ホタルがいる場所では配慮をお願いしたりしています。

【2】について、正解は全てです。丹波篠山市は、子どもたちがあいさつをしてくれる、よいまちなのです。

夢へのかけはし

教育やスポーツ、文化・芸術などの分野で活躍する若者たちを紹介します。

丹波篠山市出身・河口航生さんが日本学生トライアスロン選手権初出場



大阪体育大学1年生
河口 航生さん

スイム（水泳）、バイク（自転車）、ラン（長距離走）の3種目を連続して行う競技トライアスロン。丹波篠山市出身で大阪体育大学1年生の河口航生さんが、西日本学生トライアスロン選手権（近畿ブロック）において総合34位・近畿ブロック24位の成績を収め、9月27日に香川県で開催される日本学生トライアスロン選手権（全日本インカレ）への出場権を獲得しました。

大学1年目から全日本インカレ出場を目標にしていた河口さん。当初はバイクとランで順位を上げる作戦でしたが、当日の悪天候や大会前の落車の影響を受け、ランに力を残す戦略に変更。その作戦が功を奏し、念願の全日本インカレ出場を決めました。河口さんは、「全日本インカレでは、失敗を恐れず積極的なレースをしたいです。泥臭く前へ前へと攻め、見ている人がワクワクするようなレースができれば」と意気込みを語りました。



大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎FAX 506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎FAX 506-2366

えきラボ通信



篠山イノベーターズスクール 2026年度生をご紹介します！

2026年度12期の開講式が開催されました。今年度は起業エントリーゼミ、起業アドバンストゼミ、コミュニティビジネス・アドバンストゼミの3つのゼミを設け、総勢23人が集まりました。

今回は起業エントリーゼミの受講生を紹介します！



開講式の様子

ゼミ Day1 の様子

みなとあきこ 湊燦子さん（丹波篠山市在住）



所属する会社で新規事業の立案に携わった経験から起業に興味があったのですが、本当に取り組みたい事業が見つからず、模索する日々を過ごしていました。そんな中、篠山イノベーターズスクールのチラシを見かけ、「自分の人生を前に進める大きな一歩になるかもしれない」と感じ、参加を決意しました。

夫が猟師であることから、今後は獣害対策など地域の農作物を守る活動に取り組みたいと考えています。また、自ら育てた作物を使ったジャムの製造・販売や、地域の魅力を発信するイベント開催にも挑戦し、関係人口の増加につなげていきたいです。